

## 北九州市立病院機構 第4回理事会議事録

- 1 日 時** 令和2年3月12日(木) 16:00～
- 2 会 場** 北九州市立商工貿易会館3階 301会議室
- 3 出席者** 中西理事長、武田副理事長、中野理事、伊藤理事、田中理事、松本理事  
(オブザーバー) 中野監事、和唐監事、阿高保健福祉局参事
- 4 議 案**
- (1) 地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和2年度計画について
  - (2) 地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和元年度予算の増額補正について
  - (3) 地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和2年度予算について
  - (4) 地方独立行政法人北九州市立病院機構における組織の設置について
  - (5) 医療センターにおける標榜診療科の設置について
  - (6) 八幡病院における標榜診療科の設置について

### 5 議事要旨

- 議案1 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案2～3 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案4 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。
- 議案5～6 事務局から議案説明を行い、原案どおり可決された。

### 6 質疑応答要旨

#### ○議案1

(松本理事) 政策医療の感染症について、現在、医療センターと八幡病院には、新型コロナウイルス対策のリーダーシップを発揮して頂き、深く敬意を表する。一方、これまで新型コロナウイルスに対応する中で、感染症医療の提供体制について不足している部分もあるのではないかと。今後の整備については計画を立てる必要があるが、市に対して要請すべき点があれば伺いたい。

(中西議長) 政策医療は機構の最も重要な責務であり、感染症については、医療センターが第一に担い、八幡病院がサポートする体制を取っている。現状では、病院現場の大きな疲弊はないが、今後はそうした可能性も出てくると思う。一方、感染症病棟の施設や設備については、建築時期が古いこともあり、例えば、人工呼吸器が必要な重篤な患者に対応できない等、若干問題がある。できるだけ工夫して対応しているが、安心して受入れるためには、ある時期

に、新築や改築等の抜本的な対策が必要ではないか。私どもとしては、人命救助と院内感染の防止に努めているが、将来的な市立病院のあり方については、広く北九州市全体でお考え頂き、市民が安心して暮らせる医療体制を作っていく必要があると思う。機構としても、今後、関係の皆さんと十分に協議を尽くしていきたいと考えている。

(中野理事) 医療センターの感染症病棟は16床あるが、臨時外来の設置等により、受入可能人数は10名となっている。施設は老朽化が進んでいる上に部屋が狭く、ECMOのような人工心肺の機械は入れることができず、重篤な患者は感染症病棟では受け入れできない。必要な場合は本館の集中治療室を使うつもりだが、仮にそうなれば、手術等の一般診療に大きな影響が出る。新型コロナウイルス対策については、市立病院の使命と認識しており、一般病床の一部を休止して感染症病棟に人員を集中的に配置するなど、医療センター全体で対応する体制を取っているが、施設や設備については、是非、新築や改築によって市民の期待に応えられるようにして頂きたい。

(伊藤理事) 八幡病院では、3月から疑似症患者の外来受入れを開始したが、救命救急センターの性質上、発熱や肺炎の患者を診察する施設や設備は整っている。また、医療センターがオーバーフローした場合は、ICU等に入院患者を受け入れることも想定して対応している。

(中西議長) 福岡県における2類感染症の指定医療機関については、福岡地域は5つの医療機関に1床から4床ずつ確保されているが、北九州地域は医療センターに16床あるだけで、規模は大きいものの、1箇所でもいいのかということ、次のステップで地域として考えていただく必要があると思う。

(松本理事) 両病院が頑張っていることは理解できたが、いま直面している課題については、今後、市の予算に反映できるよう、是非この機会に、計画等を作っていただき、市に要望していただければと思う。

(武田副理事長) 地方独立行政法人の場合は、長期借入は設立団体の資金で賄う仕組みになっている。例年、市の予算編成作業は夏頃から始まるので、今回の病院現場からの要求項目は機構としてまとめた上で、保健福祉局と協議させていただきたいと考えている。

#### ○議案2・議案3

(中西議長) 経営状況が厳しいことは重々承知している。次年度は、とにかく収入増と経費節減について厳しい態度で臨まねばならないと考えている。一方で、今年度の取組みの効果が出てくることも期待している。

#### ○議案4

(田中理事) 新しい組織を設置するにあたって必要な予算は反映されているのか。

(事務局) 反映している。

(中西議長) 治験等の臨床研究については、大きな収入の増は見込めないが、推進することによって、医師の質の向上が期待できるし、良い研究をして良い医師が集まる好循環を作っていきたい。

#### ○議案5・議案6

(松本理事) 最先端の医療に取り組むことは非常に良いことだと思う。一方で、総合診療を担うところが見えにくい気がする。どの診療科を受診すればいいかわからない患者にはどのように対応するのか伺いたい。

(中野理事) 医療センターでは、選定療養制度が始まって以来、約9割の方が紹介状を持参されるので、受診すべき診療科がわからない方は少なくなっている。また、院内には「総合診療科」を設置しているので、わからない方はそちらで対応できるようになっている。

(伊藤理事) 八幡病院は、診療科とは別に「救命センター」や「小児救急センター」という窓口があり、救急患者については、そちらで内科系と外科系に振り分ける仕組みとなっている。一般外来については、内科と外科がそれぞれ総合診療科のような役割を担っている。

(事務局) 今回の議案は、保健所に届出を行う診療科に限っている。

医療センターの総合診療科は院内標榜という取扱いになっている。

#### ○その他

(松本理事) 新型コロナウイルスについては、医療センター、八幡病院とも非常に頑張っていたいただき感謝している。先日、市内16の協力病院の会議を開催したが、積極的な病院とそうでない病院で対応に温度差がある。まず両病院が頑張っている姿をたくさん見せていただければ、他の病院の理解も深まっていくのではないかと期待している。今後、感染が拡大する状況になれば、さらに多くの病院に協力を要請する必要があるが、その際には、両病院の実績や経験を伝えていただければ、市内の医療提供体制も出来てくると思う。世界各地では、医療が崩壊した地域の死亡率が高くなっているが、高齢者や基礎疾患のある人を守ることで、医療崩壊を防ぐことが我々の最大の使命だと考えている。両病院におかれては今後もしっかり頑張っていたいただきたい。

(中西議長) 機構としては、とにかく第一線で頑張っていきたい。万が一、感染が拡大した場合は、北九州市を上げて各病院の協力を仰ぐ必要が出てくると思うが、その際には是非、松本理事或いは市からサポートいただき、とにかく北九州市からは、死亡者を極力出さない方向で取組んでいきたいと思う。

(田中理事) 今後のことになるが、病院の新築や増設は1年や2年ではできないので、まずは専門家による具体的な計画づくりが必要だと思う。新型コロナウイルスに関しては、当社の社員も感染したが、医療センターの施設や設備の課題は市民も知らないのではないかと。病院だけでなく、北九州市には老朽化した施設がたくさんあり、優先順位付けも必要だと思うが、医療センターの建替

えについては、自分としてもお手伝いしたい。市にも危機感を持っていただきながら、具体的な計画づくりを行う体制を作らないと前に進まないと思う。また、今回、臨床研究推進室と合わせて、広報体制も強化されるが、おそらく市民は、医療センターが癌の専門で、八幡病院が救急をやっていることをあまり意識していない気がする。今回の体制強化を契機に、そうした専門性もアピールしていった方がいいと思う。

(阿高参事) 昨年度は八幡病院が移転改築され、今年度は北九州市立病院機構が発足した。市民の関心も、次は医療センターをどうするかに向いてくると保健福祉局としても認識している。今回の新型コロナウイルス対策については、市内の医療機関が「まずは市立病院が先頭に立ってやって欲しい」と言われる中で、医療センターの建物や設備上の課題が明らかになってきたし、医療センターが立地している且過地区は過去に水害も経験している。機構の財務に密接なつながりを持つ北九州市としても、あまり豊かな財政事情ではないが、地域の拠点となる医療センターのあり方については、今後議論していくことにしている。

(中西議長) 機構としても、医療センターの建替えは意識しているが、赤字体質のままでは難しいので、まずは経営改善だと考えている。一方、公的病院として、どのように地域医療を支える責任を果たすのかについては、国からも様々な考えが示されているし、独法化の際に議論されたものとも合致していると思うが、医療センターのあり方については、地域医療機関との棲み分けも十分考えながら、広い視野で進めていきたいと考えている。

(田中理事) 何とか早く進めていただきたいと思う。私としてもできる限り協力したい。

以上